

安保3文書 「専守防衛」の大ウソ

憲法と平和踏みにじる



敵基地攻撃に活用するトマホークの射程は1600キロメートル

岸田政権が閣議決定した「安保3文書」はウソとごまかしだらけ。でたらめで、憲法・平和を踏みにじるなど許されません。

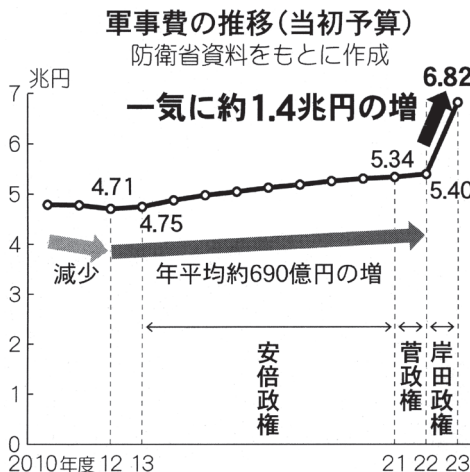
大ウソ「専守防衛に徹する」 敵基地攻撃能力を保有

「専守防衛に徹し、他国に脅威を与えるような軍事大国にはならない」（安保3文書）。そう言いながら、敵基地攻撃能力を保有する——こんな大ウソはありません。

「専守防衛」の核心は、自衛隊が日本の領土・領海と近接する公海で相手の武力攻撃を排除することに限定し、相手国領土内まで行って攻撃はしないという原則です。

これに対し敵基地攻撃は、相手国領土内の基地のほか軍事目標を攻撃するもので、真っ向から「専守防衛」に反します。

「軍事大国にならない」といいますが、これも大ウソ。軍事費が倍増すると日本は世界第3位の軍事大国になります。



大ウソ「国は自分で守る」 米の全面戦争に巻き込む

敵基地攻撃能力の保有は「自分の国は自分で守る」ためと言いますが、本当の狙いは米軍が地球規模で行う戦争で、自衛隊が肩を並べて戦うことです。

安保3文書は、敵基地攻撃能力は安保法制の「存立危機事態」でも発動可能としています。「存立危機事態」=日本が攻撃されていないなくても米国への攻撃が着手されたと判断すれば、敵基地攻撃を行う。その結果、相手国からの報復攻撃による国土の焦土化を招きます。

大軍拡 勝手に決めるな 解散・総選挙で信を問え

「敵基地攻撃能力」「軍事費2倍化」「増税」——岸田首相は、戦後日本のあり方を根底から覆そうとしています。そんな大転換を、一片の閣議決定で強行することに「勝手に決めるな」という声が広がっています。

岸田首相は、軍拡について参院選でも秋の臨時国会でも「知らぬ存ぜぬ」の一点張りでした。共産党は統一地方選で「大軍拡やめよ」の審判を下すとともに、解散・総選挙で信を問えと訴えてたたかいます。

9条生かし東アジアに平和をつくる

共産党の外交ビジョン

共産党は、憲法9条を生かし東アジアに平和をつくる「外交ビジョン」を発表し実現のために努力しています。

「ビジョン」は①あらゆる紛争を国連憲章に基づき平和的な話し合いで解決する②あれこれの国を排除するのではなく、地域の全ての国を包み込む——という考え方に立って、東アジアに平和の枠組みを築こうというものです。

この枠組みは東南アジア諸国連合(ASEAN)加盟10カ国と日・米・中・韓・ロなど8か国で構成する東アジアサミット(EAS)として既に存在しており、発展へ努力が進められています。